

公益信託世田谷まちづくりファンド

第29回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

< 1-1 大豆だいすき研究会 >

- ・これまで家族単位でやってきた活動が、周囲の人の関心を集めた経験に手応えを感じました。新住民と地元の人たちとをつなげていくためには、誰でも参加しやすいことが大切です。メンバーの縦横のつながりを生かし、農作業と食を媒介に地域の輪が広がっていくことに期待します。

< 1-2 音楽サロン・コンサート実行委員会 >

- ・地域の方々の交流の場として、自宅を拓くこと、また近隣でプロの音楽家の演奏が聴けるということは、地域にとっても素敵な財産となることとおもいます。ただ、継続的に活動を行っていくためには、手伝ってくれる仲間を増やしたり、定期的に参加してくれる人々など多くの協力者が必要になります。はじめの一步として、こうしたネットワークが少しでも広がることを期待します。すでに同様の活動をされている団体との交流もぜひ行ってください。

< 1-3 まちかどデジ活 >

- ・IT企業の会社員としてできることからスタートしようという取り組みは、まさにはじめの一步部門にふさわしいと感じました。コロナで行動半径の狭さが加速している中高年にとっては、若い人以上にオンラインで救われる場面も多いと思われれます。ななつのこのコミュニティのつながりを生かして、来季に向けてさらに発展することに期待します。

< 1-4 和みの庭 >

- ・「見守りあいの街づくり」は地域のつながりが希薄化する中でとても大事なコンセプトですが、具体的にアクションに落とし込むことは難しく有名無実化している地域が多々あります。そのような中で、ご自宅を活用し活動を継続させる本気度を高く評価させていただきました。新型コロナウイルス感染拡大で、自宅を地域に開くことは勇気がいることです

が、感染対策を十分に行いプライベートスペースの公共利用のモデルとなるような活動となることを期待します。

< 1-5 箱庭カフェ >

- ・地域共生のいえを活用して、異文化・多国籍をテーマにイベントを開催していくという発想は、社会のニーズとも合致しており、更にまちの中で住民が企画・実施して行くという点でも大変良いものだと感じました。活動内容に「おにぎりプロジェクト」がありますが、感染症拡大にある中では、実施は慎重に検討し、柔軟に対応して頂きたいと思います。

< 1-6 Pollinators >

- ・人々が自然や地域との循環や繋がりを取り戻すよう、街中でのイベントやワークショップといった楽しい活動を通じて働きかけていくことは、持続可能な地域社会に向けた啓発活動として大変意義あることだと思います。1年の活動を終えた後に、楽しかったね、良かったね、イベント等として成功したね、だけで終わらず、「人々が自然や地域との循環や繋がりを取り戻す」というテーマの実現のため継続的にどのような活動を展開すべきか等より深めていただきたいと思います。

< 1-9 幾何学EXPO 実行委員会 >

- ・あえて壁新聞というメディアに着目したことにより、具体的な掲示場所の想定が大切です。貼らせてもらうためには、掲示・発信に対する理解とコミュニケーションが必要となります。また取材を元に、地元ならではの文化の掘り起こしなど、制作プロセス自体に意義を生み出すことも期待できます。ローカルメディアならではの魅力ある発信を目指してください。